

26H-pm06

結腸直腸癌患者のFOLFOX6, FOLFIRI療法におけるレジメン遵守のための薬剤部の関与(2)-重回帰分析による追加解析-

○川端 良徳¹, 中川 明子², 田川 尚之², 打越 秀², 田宮 洋一³(¹十日病院薬, ²吉田病院薬, ³吉田病院医)

【はじめに】進行・再発大腸癌の治療で施行される FOLFOX6, FOLFIRI 療法で 5FU の持続点滴を加圧式医薬品注入器(シュアーフューザー)を利用する場合、5FU の持続点滴の時間設定は 46 時間であるが、終了時間に大幅な差が出ていた。我々は、この問題を解決するため薬液の充填量と終了時間の関係を調べ、単回帰分析を行い充填量を調節し、持続点滴の時間を 46 時間に近づけることができた。今回、充填する薬液を、5FU の充填量と希釈液の充填量をそれぞれ別の要因として捕らえ解析を行ったので報告する。

【方法】FOLFOX6, FOLFIRI 療法の、シュアーフューザーに充填した薬液の量について、FOLFOX6 療法では説明変量が 5FU の充填量と 5%ブドウ糖の充填量で目的変量が時間、FOLFIRI 療法では説明変量が 5FU の充填量と生理食塩液の充填量で目的変量が時間となる重回帰分析で回帰直線を求め、任意の 5FU の充填量について各々の希釈液の至適充填量を算出。

【結果・考察】FOLFOX6 の重回帰分析では決定係数 $R^2=0.7275$ となり、単回帰分析の場合の決定係数 $R^2=0.6777$ よりも改善が見られた。また FOLFIRI では決定係数 $R^2=0.8189$ となり、単回帰分析の場合の決定係数 $R^2=0.8181$ よりも僅かではあるが改善が見られた。

重回帰分析を行うことにより、単回帰分析と比べより当てはまりの良い解析が行えたが、日常の調整業務としては、希釈液の種類により総充填量の固定されている単回帰分析の結果を踏まえたもので十分であると思われる。